

## CBAP®合格体験記

ソニーグローバルソリューションズ(株)

塩田 宏治

私は現在製造業の情報システム部門に勤務しておりますが、IIBA®日本支部の会員として活動していらっしゃる方々以外では、私が日本人で初めて合格したと聞いておりますので、同じような志を持っていらっしゃる幅広い方々に少しでもお役に立てるのであればと思い、合格体験記寄稿の依頼を引き受けました。他の合格者の方々がすでにいろいろな受験面での経験は共有されていて、それほど私の経験とも違いませんので、むしろなぜCBAP®を受けようと思ったのかという点について、多少多めに紹介しようかと思います。

### 受験動機 ～ CBAP®やBABOK®は現場にとってどのように有用なのか ～

私はもともとSIベンダにて勤務し、システムプロジェクトの企画提案、コンサルテーションから開発まで、プロジェクト業務に携わって参りました。8年ほど前に、システムを利用して価値を創造するのは最終的には顧客側の人々の責任であり、またグローバル化の流れとオフショア開発の波が世界で起き始めていることから、新しいITを使った価値創造のプロセスのどこで勝負すべきかを悩んだ末に、グローバルなオペレーションを実際に行っている顧客側の企業へ転職することを決意しました。

ビジネスを理解し、ビジネス効果を出すためのプロセス改革やシステム導入プロジェクトを実行するのでなければ、経営者にとって投資する意义がありません。つまり今風に言えば、BABOK®でとらえているBusiness Analysisの領域をどれだけ効果的にマネジメントできるかが勝負だと言えます。そのための思考のベースとなるフレームワークを提供してくれるのがBABOK®です。

では、MBAでビジネス理論を勉強するのと何が違うのでしょうか。私も海外のMBAで勉強しましたが、その経験に基づくと、MBAではより大きなビジネスや企業全体をマネジメントしていくフレームワークを理解することができます。例えばBABOK®でいうEnterprise Analysisの部分は、企業レベルでのビジネスニーズを定義していくプロセスですから、SWOT分析といったMBAでもおなじみの手法も出てきます。BABOK®を読まれた方は、BABOK®で書かれていることも、いろいろなところでこれらビジネス理論のフレームワークやコンセプトやツールを上手く活用していることに気づくでしょう。ビジネス全体の理論を理解している人は、それを改革プロジェクトに対してどのように適用することができるかについて、より具体的な枠組みをBABOK®によって得ることができますし、BABOK®に記述している内容の意味を、より広い視点から理解することができます。

またPMP®をすでに保有されている方々も多いと思います。PMBOK®でとらえられているようなプロジェクトマネジメントと、BABOK®は何が違うのでしょうか。

**BABOK®**は **PMBOK®**を意識して書かれていますし、プロジェクトマネージャが行うプロジェクトマネジメント業務との役割の違いも示されています。しかしながら、プロジェクトの現場で **Business Analysis** に関わる業務を実践しようとするならば、その活動にプロジェクトマネジメントのスキルがなければ効果的に実現できません。例えば **Business Analysis Planning** というタスクがありますが、そこではまずステークホルダー分析をし、アクティビティを定義することが記述されています。**PMP®**ホルダの方であればすぐお分かりになると思いますが、**PMBOK®**においても、立ち上げプロセスで行うことの一つがステークホルダー分析であり、計画プロセスの中でアクティビティに展開していきます。現場におけるより理想的なスキルセットとして、高い **Business Analysis** のスキルと高いプロジェクトマネジメントスキルの両方を持つことが理想的だと言えるのです。

また、プロジェクトの多くの失敗が、要件定義工程での不備とプロジェクトマネジメントの失敗で引き起こされているということは、よくお聞きになるのではないのでしょうか。プロジェクトの成功率を高めることに自ら貢献するためには、プロジェクトマネジメントを革新するだけでなく、**Business Analysis** プロセスの革新も欠かせません。**PMP®**を保有されており、かつ上流工程へのキャリア展開を考えている方は、是非 **BABOK®**の学習と実践を通し、**CBAP®**にチャレンジすることをご検討していただくとよいのではないかと思います。

また多くの企業がグローバルに活動しないと生きていけない時代に入っています。私も海外の拠点の IT 部門と連携して行うプロジェクトに関わったり、仕事のやり方（デリバリープロセスやマネジメントプロセス）をグローバルに改革していく仕事をリードしていますが、その活動を通して感じる場所は、特に欧米圏では **Industrial standard** といった標準を非常に重要視していることです。日本が独自の体系を作って海外と会話をしようとするのは、状況に応じ効果的な時もありますが、一方で多くの企業にとってはそれがグローバル化の障害やリスクとなる可能性もあると思われます。

グローバルなフレームワークとなっているものの多くは、欧米圏での考え方をベースにしていますが、その枠組みを通して自分たちの仕事の仕方を見つめ直し、また海外ではなぜそのような考え方をしているのかを理解することを通して本質の理解が深まり、そして改良を加えてより良い実務標準として積み上げていくことができるのではないかと考えています。**BABOK®**を理解することで、海外とのコミュニケーションの基盤となり、本人にとってはよりグローバルな人材へ一歩近づくことになろうかと思えます。

こうした **BABOK®**の整理された知識体系を習得して自らの知識を再構築し直し、そのフレームワークを通して、自らの **Business Analysis** の現場経験をマッピングすることで、より深い理解へと到達します。**CBAP®**は少なくともそうしたレベルに到達した一プロフェッショナルであることを証明する重要なキャリア形成過程のマイルストーンではないかと思うのです。

## 出願審査と受験登録

すでに体験記を書かれている方と大きくは変わりませんが、多少解説したいと思います。受験資格として、**Business Analyst** という職種で働いている必要はありませんが、過去のプロジェクト経験の中で、**Business Analysis** に該当するタスクを細かく拾い上げて十分な実務経験があることを示さなければなりません。これが結構大変です。**PMP®**を受験された方は似たような作業をすればいいですが、スプレッドシート上で、全てのプロジェクトを縦軸にまず洗い出し、横軸にハンドブックで記載されている **BA** アクティビティをならべて、時間数を記述していくことを行っていく必要があります。かなり時間がかかる作業だと認識してください。

また、推薦状が2通必要であります。私は **IIBA®** 日本支部の活動に参画しておりませんでしたので、自分の今の会社の上司から2名を選び、お願いをいたしました。推薦人本人に直接 **IIBA®** からメールが行きますので、失礼のないよう事前にその旨をお知らせしておく方がいいかと思います。また、全く同じではないようですが、紙ベースでの推薦状のフォームが **IIBA®** のホームページからダウンロードできますので、そちらを事前にお渡ししておくともよいかもかもしれません。

出願が受理されたメールが **IIBA®** から届くと、次は送金し、**IIBA®** で送金が確認された後に、**Castle Worldwide** 社から連絡が届きますので、受験日の申請手続きを行います。

## 受験勉強

私も先に寄稿されている林さんと同じ富士ゼロックス総合教育研究所の3日間の講座を受講いたしました。全体の構造をまず理解することができますので、今後の勉強のベースとなります。講座の中で3セットの模擬試験も教材の一部となりますので、その各設問の該当する箇所を **BABOK®** の中でマーカをしました。しかしまだまだカバーされていない部分がありますので、そこは自分で **BABOK®** を読みながら、重要な箇所に異なる色でマーカをするというようにいたしました。

**PMBOK®** でも **BABOK®** でも本文を読むだけですと、さらっと読み飛ばしてしまいがちです。しかし良くも悪くも **CBAP®** を取得するにはテストに通らないといけませんので、**BABOK®** に書いてあることを、時には **BABOK®** にはこう書いてあるからということでそのまま覚えなさいといけないうところもあります。これは **PMP®** を受験するときと変わりません。特に、各タスクの **Input**、**Output**、**Elements** は、自分で **BABOK®** の余白にサマリした絵を描きながら、覚え込みました。

しかしながら、実際の試験は **BABOK®** に書いてあることをそのまま答える問題も含まれていますが、その内容を理解した上で、設問で設定されたシチュエーションに当てはめて回答しなければならない応用編の問題も多く含まれます。私の経験では、**PMP®** に関しては、市販されている問題集がかなりこなれてきており、複数の問題集をこなすことである程度得点できると思われるのに対し、**CBAP®** はそのような適切な問題集が現時点ではあまり発

売されておりませんので、**BABOK®**の理解をベースに経験を加味した応用力が求められません。

私も US で販売されている **CBAP®**対策問題集を探してみましたが、書評を読むとどれも十分には **Ver2.0** 対応していないようでしたので、その時点では購入をあきらめました。それ故、受験の当日も 100%自信の持てない回答も複数ありましたので、結果が出るまでは決して安心はできませんでした。しかしながら、**BABOK®**の記述内容を常に自分の経験と照らし合わせながら読み解き、具体的に意味していることを理解してさえいれば、合格の確度は高いと思います。

### **BA や CBAP®に興味を持っている方々へ**

私は最初に述べた問題意識に基づき、自分のプロフェッショナル領域として、プロジェクトマネジメントのスキルに加えて、**Business Analysis** のスキルが合わさった領域が非常に大事だと理解しています。そしてこの領域は、今後の日本の IT 人材が目指すべき一つの大きな領域だと思いますし、またはビジネス革新プロジェクトをリードしていくビジネスユーザの方々が目指すべき領域でもあると思います。ユーザと IT 人材の融合した領域だと思うのです。少しでも多くの方がこうした問題意識に共感し、**CBAP®**受験という学習と成長の機会を通して、より俯瞰的なフレームワークを理解し、実践としての日々の業務を効果的に行うことができるようになることで、日本企業再生の一翼を担っていくことを切に願います。

現在は英語での受験しかできませんが、それほど高度ではない読み書きの英語スキルで十分ですし、日本語版の翻訳も出ていることから、英語だけの理由で受験をあきらめる、または日本語版の試験が始まるまで待つ必要は全くないと思います。

多くの方のご健闘を願っております。もっと話を聞きたい等ございましたら、遠慮なくメールアドレス ([shiotakj@gmail.com](mailto:shiotakj@gmail.com)) までコンタクトしていただければ、できる限りの私の経験も共有させていただきます。